

# 地方都市における移動図書館の魅力と課題

—福岡県内の移動図書館の運行状況と大牟田市・八女市の事例調査を通じて—

有明高専都市デザイン研究室  
安部あすか 樋口琴絵



## 研究背景

### 地方都市の現状

- ・少子高齢化による人口減少
- ・地域公共交通の撤退・縮小

⇒ 地域に向く活動が重要になる

### 移動図書館とは

「公共図書館が図書館を利用しにくい地域の住民に対して、何らかの移動手段を用いて図書館資料を運び、図書館員による図書館サービスを提供する方式」※出典：図書館情報学辞典

本研究では、移動図書館に着目する



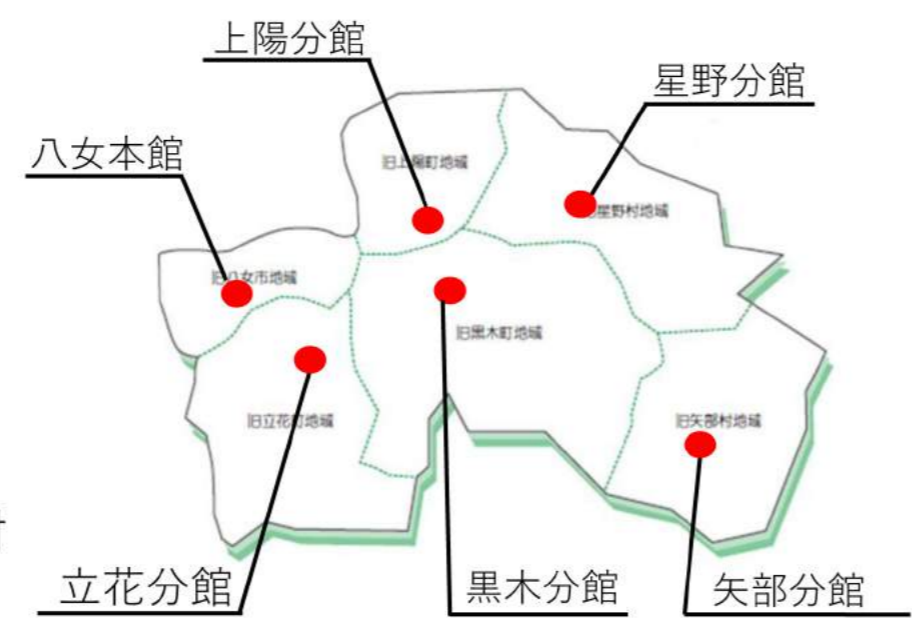
## 研究目的

- 福岡県内の移動図書館の運行状況を明らかにする
- 移動図書館の魅力と課題を明らかにする

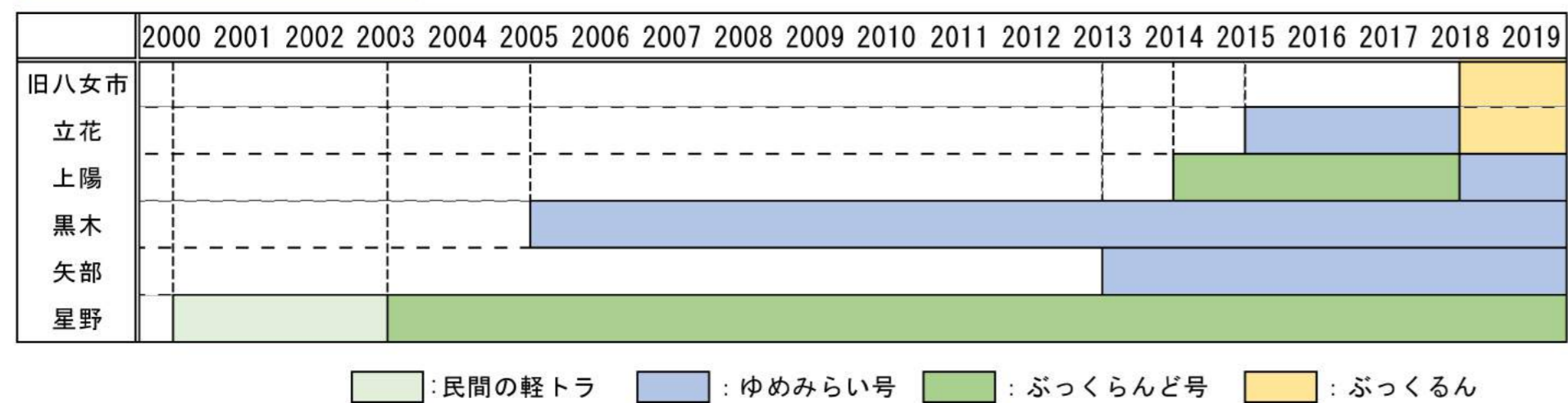
## 事例調査②：八女市

### 八女市について

人口 63,276 [人]  
面積 48,253 [km<sup>2</sup>]  
2006年：上陽町合併  
2010年：黒木町・立花町・星野村・矢部村

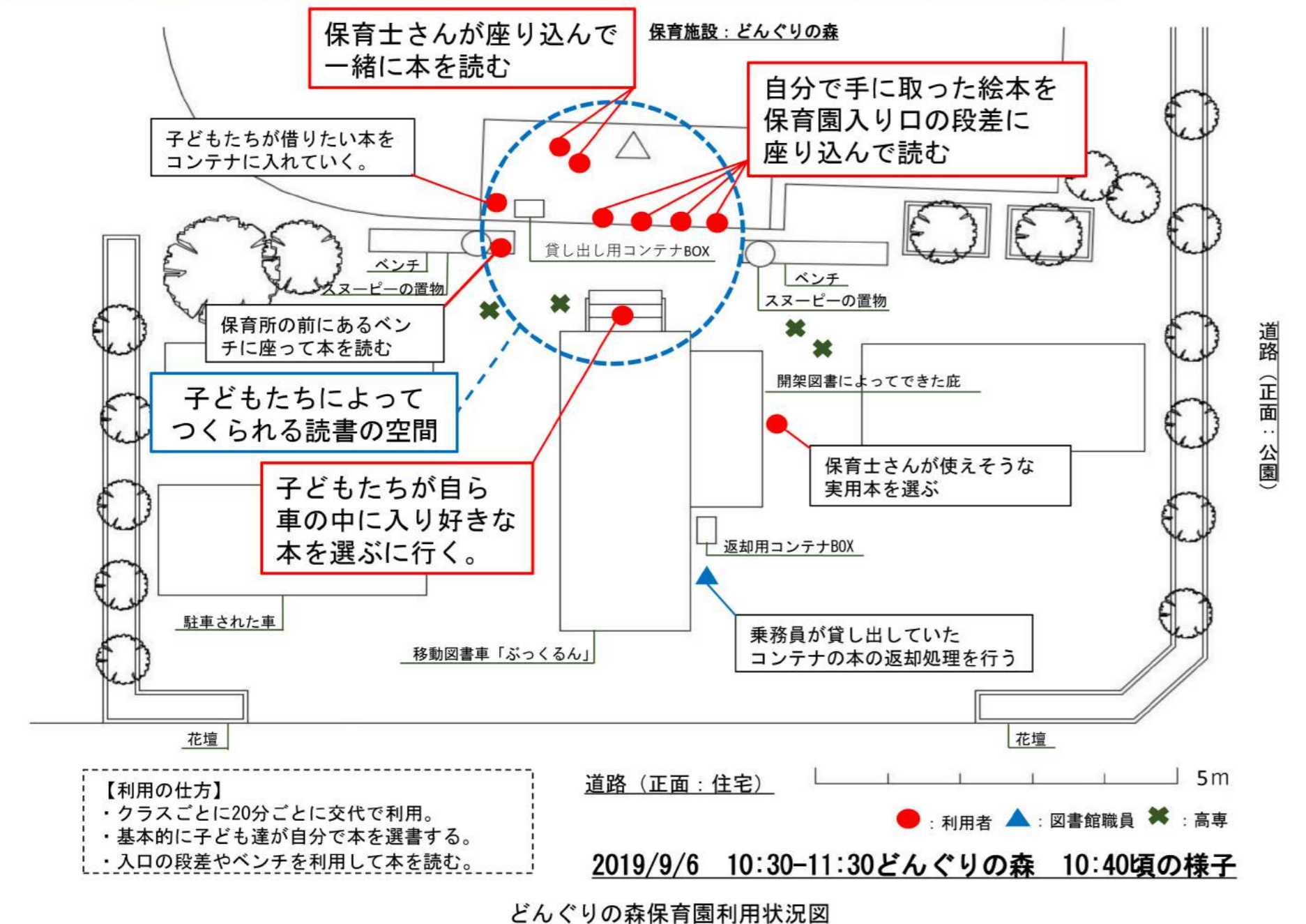


### 移動図書館について



最初に運行開始：「ぶっくらんど号」2003年星野地区巡回→2014年上陽地区巡回  
「ゆめみらい号」2005年黒木地区巡回→2013年矢部地区巡回  
「ぶっくるん」2018年立花・旧八女地区巡回

## 事例調査：利用状況①（どんぐりの森保育園）



## まとめ

資料収集より

◎明らかでなかった福岡県内の移動図書館の運行状況の実態が明らかとなった。

大牟田市・八女市の事例調査より

◎移動図書館が様々な魅力のある事業であることが分かった。

- 1.短い時間・狭い空間ではあるが自分のペースで図書館を利用できる。
- 2.日常生活の中で非日常の時間を体験できる機会を創り出すことができる。
- 3.本との出会いのきっかけを創り出すことがある。
- 4.間接的に利用者の生活を見守る役割を果たすことができる。

継続していくための今後の課題として

- ◎移動図書館の必要性を市民レベルで共有すること
- ◎移動図書館が持つ価値を引き継ぎ、発展させることができるシステムをつくること。

## 福岡県における移動図書館の運行状況

自治体	人口 [人]	高齢化率 [%]	合併の有無	名称	開始年 [年]	ステーション		
						教育施設 福祉施設	地域の 拠点	小計
朝倉市	53155	33.7	○	おひさま号	1993	22	0	21
大野城市	100849	21.4	×	わくわく号	2014	3	24	27
小郡市	59637	27	×	しらすぎ号	1989	16	10	24
春日市	113309	21.4	×	たんぼぼ号	1990	0	18	18
嘉麻市	380044	38.3	○	てんとうむし	1993	1	17	31
苅田町	37689	24	×	ふれあい号	1987	14	1	15
久留米市	305377	26.8	○	グリーン車	1976	16	18	41
田川市	47796	33.5	×	不明	1989	不明	不明	28
太宰府市	71793	27.6	×	すくすく号	2005	11	27	38
筑紫野市	103852	24.9	×	つくしんぼ号	1990	8	31	40
豊前市	25450	35.8	×	ブックン	1994	43	12	40
みやこ町	19704	39.1	○	にこにこ号	2011	不明	不明	4
八女市	63276	34.8	○	ぶっくらん	2018	24	3	27
					2006	26	10	35
					2014	不明	不明	34
行橋市	73284	29.3	×	ゆっくん	1990	1	12	32

自治体	人口 [人]	高齢化率 [%]	合併の有無	名称	開始年 [年]	ステーション		
						教育施設 福祉施設	地域の 拠点	小計
飯塚市	128471	31.1	○	不明	1987			
糸島市	101626	28.7	○	ばびるす号	2014			
大牟田市	114445	36.3	×	ひまわり号	1999			
北九州市	952145	30.5	×	不明	1996			
福岡市	1546055	21.6	×	青い鳥号	1959			

## 事例調査：1日の流れ（2019/9/6）



## 考察：移動図書館の魅力

4.間接的に利用者の生活を見守る役割を果たすことができる。

	黒木	立花	大牟田
利用状況	・保育園では全クラス解放され、先生たちが子供たちを誘って本を読んでいる。 ・大きい保育園だと、子どもたちが自由に選べる。 ・老健施設の場合は、必ず職員がついて本を選ぶ。 ・保育園にいない子どもが大きくなって自分から職員に選んでいくかアドバイザーしてくる。	・保育園・幼稚園ではクラス単位で利用し、4～5人ずつくらい車に入れて、自分たちで選んでいる。 ・老健施設の場合は、必ず職員がついて本を選ぶ。 ・保育園にいない子どもが大きくなって自分から職員に選んでいくかアドバイザーしてくる。	・小さな車に乗って本選んでいってすぐ面白くて楽しそう。 ・小学校では子供たちがひまわり号を選んで本を持って帰る。 ・老健施設には、必ず職員がついて本を持って帰る。 ・老健施設には、必ず職員がついて本を持って帰る。 ・老健施設には、必ず職員がついて本を持って帰る。
利用者の声	・保育園は本が多くて、自分たちだけの空間になる移動図書館はいい。 ・移動図書館が来るのが小さいイベントになりつつある。 ・保育園にいない子どもが大きくなって自分から職員に選んでいくかアドバイザーしてくる。	・本館は、子どもを連れて移動が大変で、ほかの利用者に気を遣うため、自分たちだけの空間になる移動図書館はいい。 ・移動図書館が来るのが小さいイベントになりつつある。 ・保育園にいない子どもが大きくなって自分から職員に選んでいくかアドバイザーしてくる。	・本が貴重で、お金がなく交通手段も自転車しかない。図書館は中心部にあるので自分から選べる。 ・移動図書館が来るのが小さいイベントになりつつある。 ・移動図書館が来るのが小さいイベントになりつつある。 ・移動図書館が来るのが小さいイベントになりつつある。
職員の思い	・施設に行けば、行く手段がないから困る。 ・行く手段がないから困る。 ・行く手段がないから困る。 ・行く手段がないから困る。	・こちらのPR不足もあると思う。なかなか図書館まで来られない方が来てくれるといい。それが本来の姿だと思ってる。 ・利用者が希望するものを聞きながら選んでほしい。 ・利用者が希望するものを聞きながら選んでほしい。 ・利用者が希望するものを聞きながら選んでほしい。	・移動図書館が来るのが小さいイベントになりつつある。 ・移動図書館が来るのが小さいイベントになりつつある。 ・移動図書館が来るのが小さいイベントになりつつある。 ・移動図書館が来るのが小さいイベントになりつつある。

定期的なステーションを訪れることで、利用者と乗務員との距離が縮まり、小さな交流が生まれていた。移動図書館が自然と利用者の生活を見守るようなかたちになっている。